

## 令和5年度 第2回 西部中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年10月12日（木） 午後3時から4時30分まで
- 2 開催場所 西部中学校 会議室
- 3 出席委員 藤谷昌宏 長野正弘 小楠達司 大渡三千子 松本鮎子
- 4 欠席委員 明石真
- 5 学 校 岡本雅康（校長） 小出義幸（教頭） 清澤涼介（CS担当教員）  
宮崎幸枝（CSディレクター）
- 6 教育委員会 鈴木陽子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 宮崎幸枝
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、前回の協議会の最後に推薦された藤谷委員から議長を務める旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

### 10 協議事項

本校における特色ある活動について

- (1) 新校舎での凧揚げ大会に向けた活動
- (2) 今年度再開予定の2年生の職場体験

### 11 会議記録

司会の清澤から、委員総数6人のうち5人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

#### (1) 新校舎での凧揚げ大会に向けた活動

校長挨拶ののち、議長の指示により、校長から凧揚げ大会について、グランドデザインを基に現状ねらいとしている価値づけや、現在検討している充実した活動になるための方策について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 浜松まつりの参加生徒は148人と報告があったが400人近くと思っていた。（長野委員）
- ・ 中学生を必要とする町が少ない。凧場に行っても役割がない。（小楠委員）
- ・ ラップもお囃子もやれる小学生の時にコロナでやれなかったからまつりから離れたのでは。今年の勢組は128人と増えて嬉しい。コロナのリカバリー、いい流れになっているのでは。（松本委員）
- ・ 専門的な技術を持っている人に負担がかかっているのではないかと（大渡委員）
- ・ 西部中凧揚げは26年目。地域からの協力者は、60代半ばが中心になっている。卒業生も戻ってきて仲間に加わってきている。学校職員や、凧作りを手伝っている方の負担を考えると、PTAも関わってバランスを取ってやっていくの

がいいのではないか。(長野委員)

- ・せっかく勢組があるのだから、浜松まつり本番でも役割があるとよい。

(松本委員)

- ・町の大きさにもよるから難しいが地域で中学生の役割を作ってあげたい。

(小楠委員)

- ・学校運営協議会の話をもつ推進会議に提言していけばよいと思う。

(長野委員)

- ・文化の継承を考えると西中の凧揚げ大会の様子を浜松市がもっと注目すべき。(藤谷委員)

- ・歴史ある活動をさらに充実した活動にしていくための方向性が見えてきたので、実施に向けて学校に預けたいと思う。(藤谷委員)

## (2) 今年度再開予定の2年生の職場体験について

議長の指示により、教頭から資料に基づき職場体験について説明があり、委員から以下の発言があった。

- ・職場体験の場所は今年はどうのように決めたか。(小楠委員)

- ・教員がお願いして決めた。(教頭)

- ・飲食や販売、きれいな職場が多い印象がある。昔は車に乗って配達したり工場で見学したりする事もあり、現場で働く人を親と重ねて見て、感動する子供たちもたくさんいた。(藤谷委員)

- ・これまでも行っていた職業講話はどうなるのか？職場体験と2本立てになるのか？(長野委員)

- ・2本立てになる。講話には6人の西中OB、OG(弁護士、カメラマンなど)が講師として来られます。(教頭)

- ・1年生で話を聞いて2年生で体験という流れでもよいですね。(藤谷委員)

- ・保護者で自営業の方など、さくら連絡網で受入事業所を募ってはどうか。

(松本委員)

- ・PTAや同窓会等の組織を活用すれば、体験先が充実していくのではないか。

(長野委員)

- ・財産(人材)はたくさんあるので、いかに活用するかが大事。(藤谷委員)

## その他連絡事項等

### 次回開催予定及び年間計画について

司会から、次回会議は、令和6年2月12日(木)午後3時から、開催する旨の報告があった。

次回協議会の議長の選出について意見を求めたところ、引き続き藤谷委員を議長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

